



FurnitureMaker

取扱説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

<最初にお読みください>

- お引渡し時（使い始め）に正常に動作しない場合は「こんなときは…」の項目をご確認いただき、なお異常がある場合は、「お客様相談窓口」にお問い合わせください。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」（次ページ）を必ずお読みください。
- 保証書は「お引渡し日」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。
- 転居される場合は、新しく入居される方が製品を安全にお使いいただくために、この取扱説明書を新しく入居される方、または取り次ぎされる方にお渡しください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。
(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



気をつけていただく内容です。



警告



分解禁止

- 絶対に改造・分解・修理をしない
けがの原因になります。
(修理のご相談はお客様相談窓口へ)



禁止

- カセットコンロなど火を使う機器を使わない
火災の原因になります。



必ず守る

- 各家電製品の指定する空間寸法を
設けて使用する
故障や火災の原因になります。



注意

家電用スライド棚・多目的スライド棚



必ず守る

- 出し入れはゆっくりと行う
手や指をはさむおそれがあります。
- 家電製品を使用するときは、必ず引き
出して使用する(ただし炊飯器・
ジャーポットの保温時は除く)

ユニット内に蒸気がこもり、水滴の発生原因になります。

扉・取手



禁止

- ぶら下がらない
- 大きく開けすぎない



必ず守る

- 扉が傾いたり、がたついているときは、
ヒンジ(丁番)のねじを締め直す
扉が外れて、けがをするおそれがあります。

フロートユニット(床から浮いて設置された箱)



禁止

- 乗らない、座らない

箱が外れて、けがをするおそれがあります。

棚板



必ず守る

- 棚板の目安積載量はサイズにより異なり
ます。P5の『棚板耐荷重の目安』をご
参照ください
- 可動棚の位置調整時には、棚板を棚受
けにきっちりとはめる。

棚板が外れて、けがをするおそれがあります。

引出し



禁止

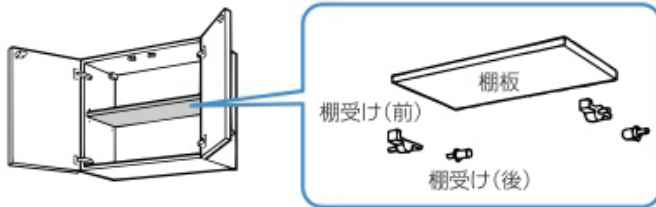
- ぶら下がらない

引出しが外れて、けがをするおそれがあります。

ユニット

可動棚

棚板は、好きな位置に移動させることができます。
棚板を外し、棚受けを移動させてください。
棚受けには前後があります。



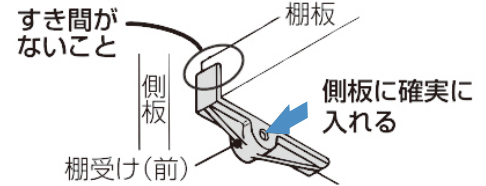
注意



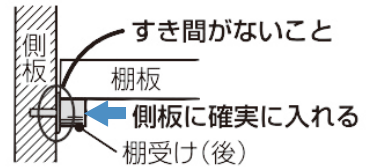
位置調整時には、棚板を棚受けに
きっちりとはめる
必ず守る 棚板が外れて、けがをするおそれがあります。

棚受けの取り付け

棚受け(前)

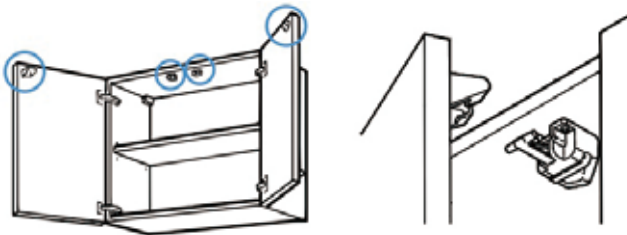


棚受け(後)



耐震ラッチ

地震発生時、扉が開かないように「耐震ラッチ」が作動します。



地震の強さ、揺れかたや地質・建物の構造・階数・取付状態・ユニットの使われかたにより、耐震ラッチが作動しないことがあります。

耐震ラッチは振動で作動します。
扉は静かに開閉してください。

耐震ラッチが働いた場合の解除のしかた

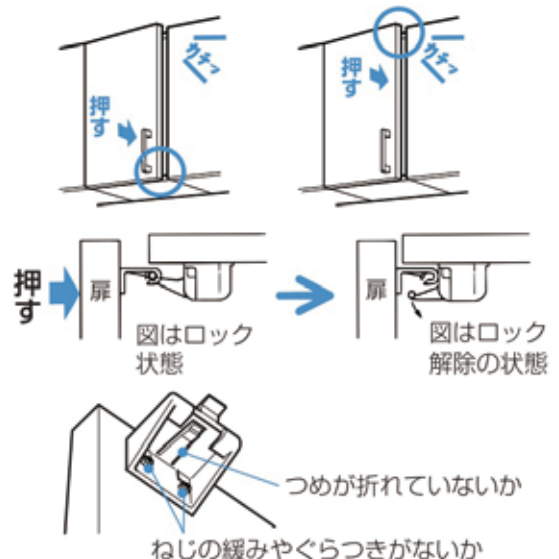
- 1 扉に物が挟まっていないか確認する。
- 2 「カチッ」と音がするまで、取手または扉の上部を強く押す。
- 3 収納物が崩れ落ちないように注意して開ける。

※ 解除されない場合は、扉の下にタオルを当て、持ち上げるようにして扉の上部を押し込んでください。

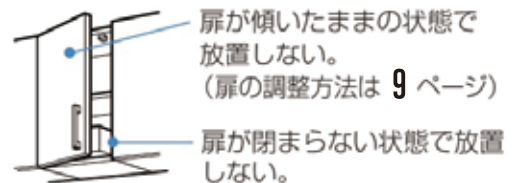
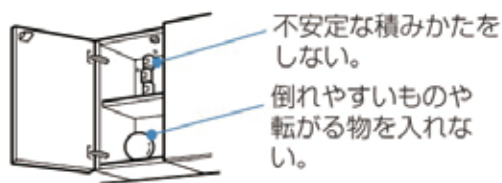
● 地震で躯体（壁や床など）にゆがみが生じている場合は、正常に解除できないおそれがあります。

● 一度解除しても、また開かなくなる場合は、ユニットが傾いている可能性があります。
お客様相談窓口へ連絡してください。

● 耐震ラッチが破損していないか確認してください。
破損により、耐震ラッチが作動しないことがあります。

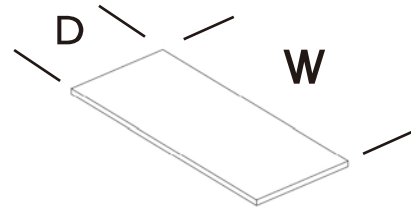


●正しく機能させるために



棚板耐荷重の目安

サイズ	板厚	耐荷重
W900 X D300	15mm	5Kg
W900 X D550	15mm	10Kg



※棚板のタワミが1.5mmになる重さの目安です。

ご使用上のお願い

物がはさまったまま、無理に扉を閉めない

ヒンジ（丁番）などが破損する原因となります。

収納物は片寄りなく入れる

片寄って入れると、ユニットの変形や破損の原因となります。

引出しの収納物は片寄りなく入れる

片寄って入れると、引出しが傾く原因となります。

扉や引出しに無理な力をかけない

丁番やレールが破損する原因となります。



引出しは一段ずつ開閉する

上下同時に引出しやスライド棚を開閉すると、上下の扉がこすれる場合があります。



腐敗や発酵など劣化のおそれのあるものは収納しない

冷蔵庫や電子レンジ・オーブンレンジなどの機器から発生する熱によって室温よりユニット内温度が5℃程度上昇する場合があります。

熱源等を近づけない

熱源(ドライヤー、暖房機器、仮設電球等)を近づけないようご注意ください。

扉の開閉時にはご注意ください

お子様が近くにいる場合、扉や引出し、スライド棚で手や指をはさまないように扉を開閉してください。

炊飯器・ポットなどの使用時は蒸気に注意する



蒸気が直接家具にあたると、扉やユニットの表面が膨れ・はく離するおそれがあります。

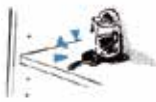
シールやテープ類を貼らない

表面がはがれたり、汚れが落ちにくくなるおそれがあります。



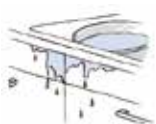
汚れたままにしない

油・調味料など食品の汚れは、腐食やかびの原因となります。



ぬれたままにしない

家具表面や端面のはがれ、染み 膨れの原因となります。



ぬれたタオルをかけない

取手にぬれたタオルをかけると、扉の劣化の原因となります。



お手入れのしかた

○ 使える洗剤・道具



台所用洗剤 (中性) 柔らかいスポンジ タオル・ふきん

✗ 使えない洗剤・道具

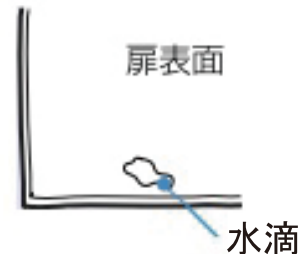


酸性・アルカリ性塩素系洗剤漂白剤 シンナーベンジン 研磨剤入りスポンジ 金属たわし 歯ブラシ クリームクレンザー(細粒子)

■ 扉・取手・ユニット内部・引出し

日常のお手入れ

固く絞ったふきんで水ぶきし、仕上げにからぶきする。
 アルミ枠ガラス扉など水ぶきする場合、
 固く絞ったふきんを使用しないと、すき間から水が
 染み込み、表面から水滴が見えることがあります。



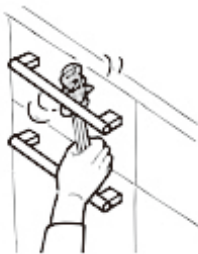
汚れているとき

● 扉

- 1 台所用洗剤（中性）を含ませたふきんでふく。
- 2 固く絞ったふきんで水ぶきし、仕上げにからぶきする。

● 取手

- 1 細かい部分は割り箸に布を巻き、その先に台所用洗剤（中性）を含ませてこする。
- 2 固く絞ったふきんで水ぶきし、仕上げにからぶきする。



● ユニット内部

- 1 調味料や油が垂れて底板にこびりついた場合、まず中の収納物を全部新聞紙の上などに出して、隅々のごみを取り出す。
- 2 台所用洗剤（中性）を含ませたふきんでふく。
- 3 固く絞ったふきんで水ぶきし、仕上げにからぶきする。
 ※ 収納物を戻すとき、瓶などの底をきちんとふいておきましょう。

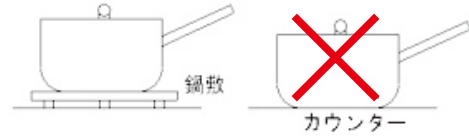
お手入れのポイント

- お手入れした後は、ユニット内部を空の状態にしたまま、扉を開けて風を通します。
 お手入れ日以外でも時々扉を開けましょう。
- ユニット内部に物がぎっしり収納されていると普段の出し入れも、お手入れも大変。
 収納量は70%～80%程度に抑えましょう。

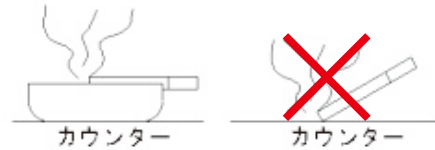
■ カウンター

⚠ ご使用上のお願い

- ・ 沸騰した鍋、ヤカンや油鍋等は直接カウンター表面には置かず、必ず鍋敷き等の上に置いてください。



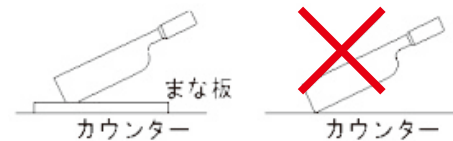
- ・ 火のついたタバコを直接カウンターの上に放置せず、必ず灰皿を使用してください。



- ・ ドライヤーやストーブ等の熱をカウンターの表面に直接当てないでください。



- ・ カウンターの上で直接包丁やカッターナイフ等を使用しないでください。



- ・ カウンター表面にかたい物を落としたり、ぶついたりしないでください。

- ・ カウンター基材には木質材料が使用されておりますので、洗面所などの湿気の多い場所は換気等を十分に行ってください。

お手入れのしかた

○ 使える洗剤・道具



✕ 使えない洗剤・道具



(強酸・強アルカリを含む洗剤の原液の使用は避けて下さい。万一付着した場合は、速やかに拭き取って下さい。)

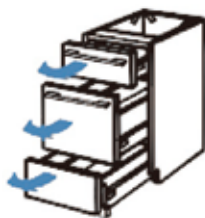
こんなときは・・・

■ 引出しの取り外し・取り付け

● 鋼製（ソフトクローズ）

● 取り外し

いっぱい引き出し、少し持ち上げて引き抜く。



● 取り付け

① 左右のレールを引出し、矢印の部分に引出しを差し込む。

② 「カチッ」という音がするまで引出しを押し込む。

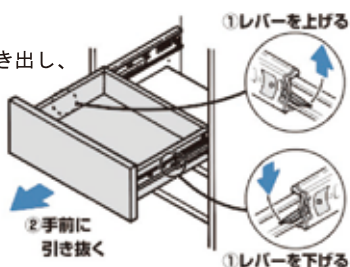


● 木製引出し、木製内引出し

● 取り外し

① レールをいっぱいまで引き出し、黒いレバーを上げる。（下げる）

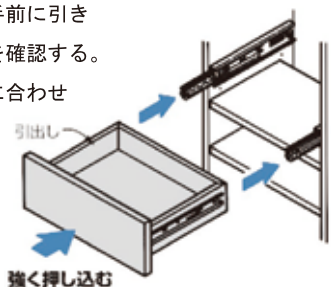
② 手前に引き抜く。



● 取り付け

① 本体側のレールを少し手前に引きレールのかみ合う位置を確認する。

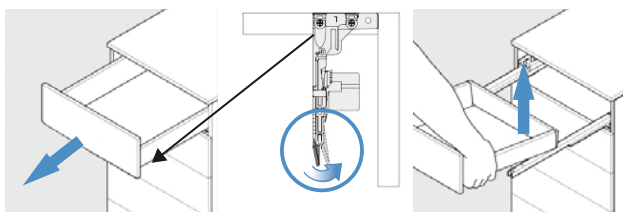
② 木製内箱のレールを溝に合わせ強く押し込む。



● プッシュオープン引出し（内箱木製）

● 取り外し

引出しをいっぱいまで引出し、内箱の底にみどり色のレバーがあるので動かしてから引出しを持ち上げる。



※みどり色のレバーを左右同時に動かして下さい。

※引出し・スライド棚を入れた後は、2・3回開閉して、確実に取り付けられていることを必ず確認してください。

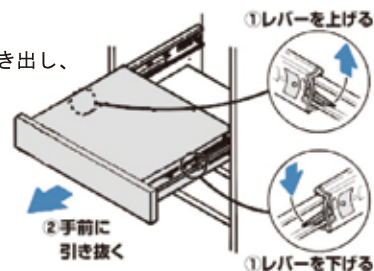
■ スライド棚の取り外し・取り付け

● 多目的・内スライド棚

● 取り外し

① レールをいっぱいまで引き出し、黒いレバーを上げる。（下げる）

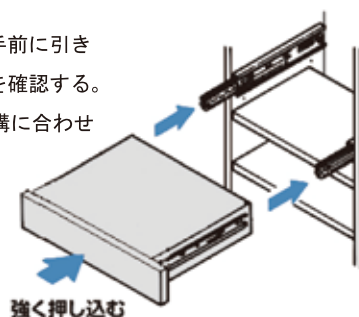
② 手前に引き抜く。



● 取り付け

① 本体側のレールを少し手前に引きレールのかみ合う位置を確認する。

② スライド棚のレールを溝に合わせ強く押し込む。

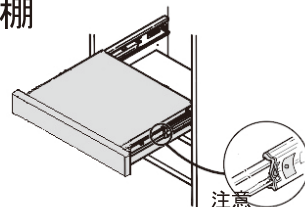


左右のレールがしっかりとかみ合っている状態を確認し、閉まりきるまで強く押ししてください。

※閉まりきるまでは硬く感じますが、異常ではありません。

● 家電用スライド棚

レールの脇に黒いレバーが無い場合は取り外しが出来ません。



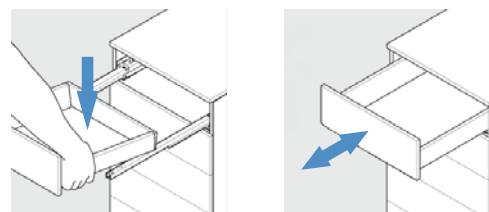
■ 扉ががたつく・・・

ヒンジ（丁番）固定ねじをプラスドライバーで締める。



● 取り付け

引出しレールをいっぱいに出し、左右レールガイドに沿って内箱を乗せたらゆっくり引出しを押し込んで下さい。引出し金具にロックされたことを確認して下さい。



■ 扉の調整

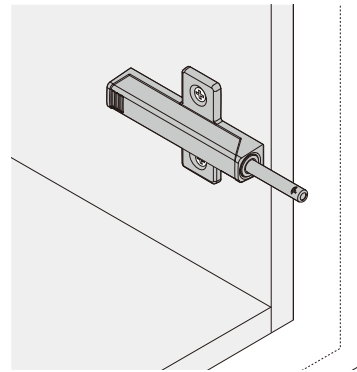
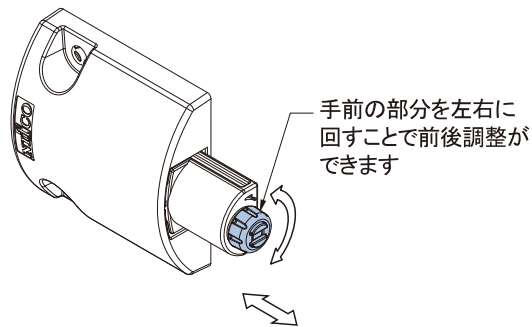
ヒンジ(丁番)の調整ねじを
プラスドライバーで調整する。



扉の状態	調整のしかた
左右に傾いた 	(A) を回すと扉が矢印の 方向に動く。
扉が前に傾いた 	(B) をゆるめて扉を前後に 移動させ、しっかり締める。
扉が下がってきた 	(C) をゆるめて扉を上下に 移動させ、しっかり締める。

■ プッシュオープン金具の調整

アダプターの調整ねじをプラスドライバーで回して
隙間の調整をしてください。

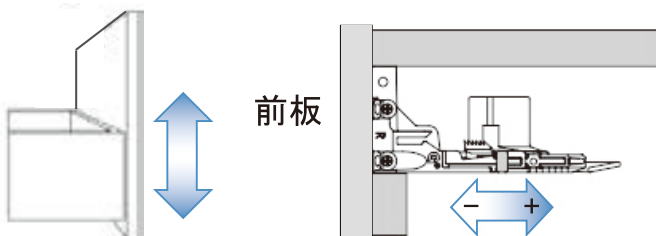


こちらの形状は調整機能はありません。

■ プッシュオープン引出しの閉まりが悪い・・・

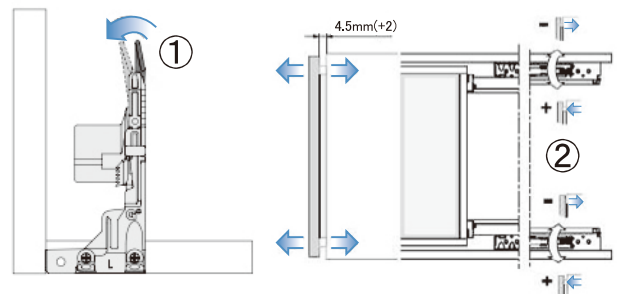
● 上下調整

- ① 内箱の底(手前寄り)に調整用金具があります。
- ② レバーを前後すると引出しが上下に動きます。(左右別々)
- ③ 何度か繰り返してすきまを調整してください。



● 前後調整

- ① 内箱の底(手前寄り)に調整用金具緑色のレバーが
ありますので外側に引きながら、引出手前に引いて
下さい。(左右同時)
- ② レール奥に調整用ダイヤルがありますので回して
引出前板の隙間を調整して下さい。
この作業を何度か繰り返してすきまを調整してください。



■ 鋼製引出し(ソフトクローズ)の調整

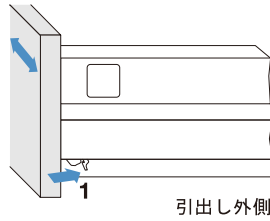
収納物を片寄りなく入れているか確認してください。それでも前板が揃わない場合は、調整をしてください。

● カバーキャップが正方形の場合

調整方法

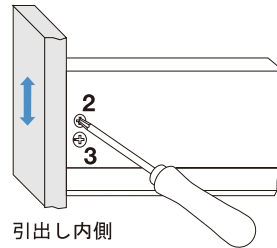
左右調整

- ・ 固定レバー(1)を後ろへ押し込んだ状態で保持
- ・ 前板を少し持ち上げて溝に引っ掛からないように動かす
- ・ 調整範囲±1.5mm
- ・ 希望の位置に調整して固定レバーを離す(1)

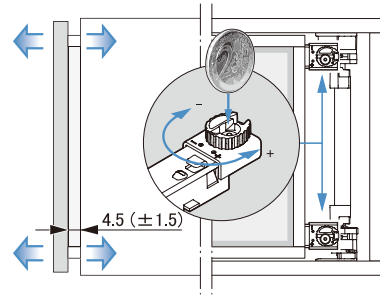


高さ調整

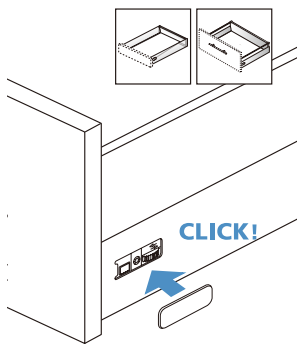
- ・ ネジをゆるめる(2)
- ・ 偏芯ネジで前板を希望の位置に調整(3)
- ・ 調整範囲±2mm
- ・ ネジを締め付ける(2)



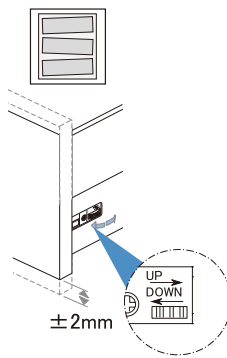
前後調整方法 (プッシュオープンのみ)



● カバーキャップが長方形の場合

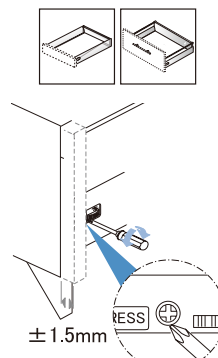


- ・ カバーキャップを外す



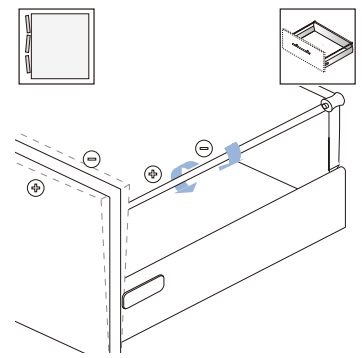
上下調整

- ・ UP/DOWN方向に部品を回す



左右調整

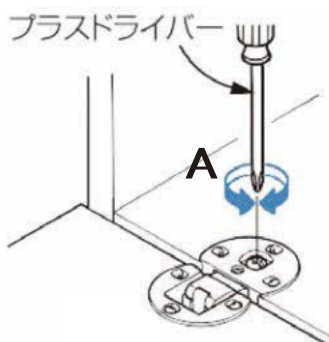
- ・ +(プラス)のネジをドライバーで右または左に回す



- ・ バーがある場合、右または左に回し前後の傾きを調整する

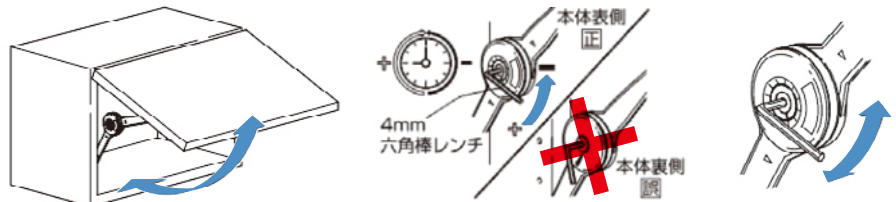
● 金具の調整

日常の開閉動作により、ねじが緩むことがありますので、がたつきがある場合は A にゆるみがある可能性がある為、締め直してください。



● フラップ・ステーの調整







トルク値の調整は、本体表側中央の4mm六角穴を回して調整してください。2本使いの場合には、調整は左右均等に行ってください。



トルク値が弱くなり最適な作動を得られなくなった場合には再度調整を行ってください。
※ 調整後は、扉を実際に動かして最適な作動を得られたか確認してください。

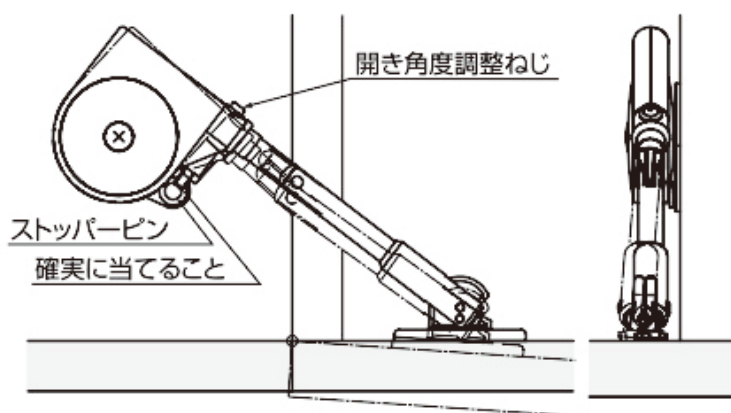
■ フラップ扉が揃わない・閉まりが悪い・・・

● フラップアップ(扉を揃える)

扉の状態	調整方法
例1 	 ①Aを左に回すと矢印の方向へ動き、右に回すと反対に動く。
例2 	 ②Bをゆるめて丁番本体部を前後に移動させる。 ※調整後、必ずしっかり締めてください。
例3 	 ③Cをゆるめて丁番本体部を左右に移動させる。 ※調整後、必ずしっかり締めてください。

● フラップダウン・ステーの調整

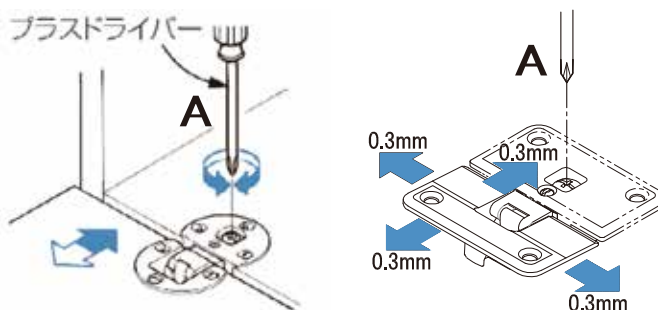
扉を最大に開いた時、アームが「く」の字に曲がらないようアームが真っ直ぐになるよう調節してください。
ステーの開き角度調節ねじを座金のストッパーピンに当て、アームが真っ直ぐになるよう調節してください。



● フラップダウン(扉を揃える)

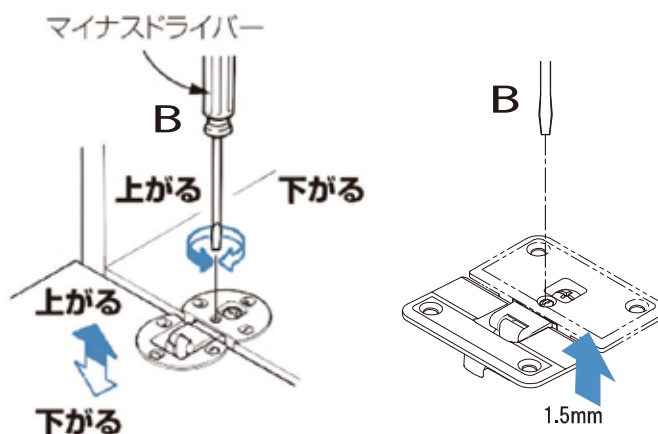
左右前後調整

- ① Aのねじを左に回してゆるめる
(全ての丁番のねじをゆるめて下さい)
- ② 扉を左右前後に動かす
- ③ Aのねじを右に回して締める
(全ての丁番のねじを締めて下さい)
[左右調整±1mm、奥行調整+2.5/-0mm]




上下調整

- ① Aのねじを左に回してゆるめる
※この時、左右前後も動きますので注意して下さい
- ② Bのねじを左右に回す
※回しすぎるとねじが抜けてしまうのでご注意ください
- ③ 位置が決まったらAのねじを右に回して締める [上下調整±1.5mm]



※調整後、再度Aのねじが締まっているか確認してください。
※調整後は扉を2～3回開閉し、金具が固定されていることを確認してください。

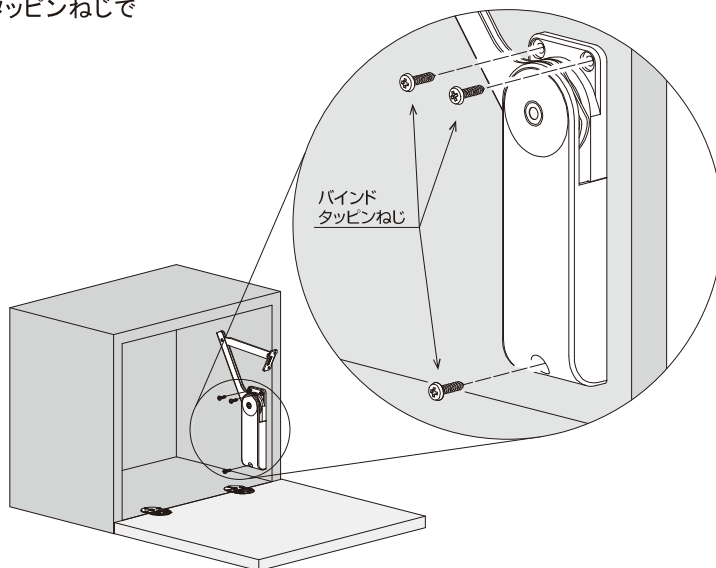
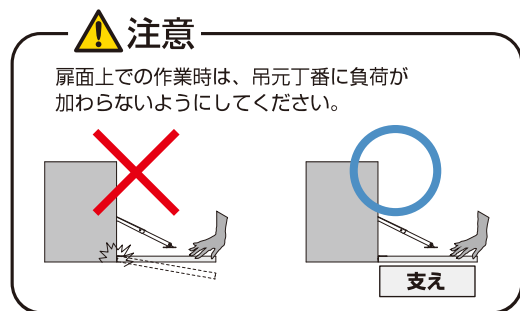
■ 取付手順

 本製品を取り付ける前に、吊元丁番が規定位置に取り付けられており、扉がスムーズに開閉することを確認してください。

● 本体の取り付け

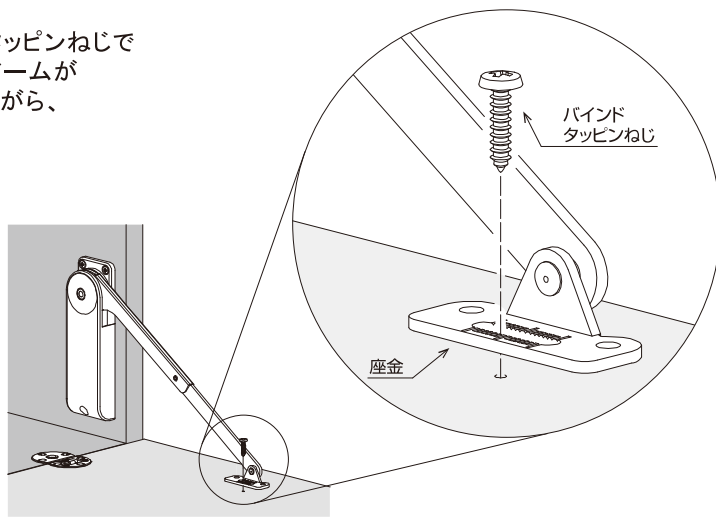
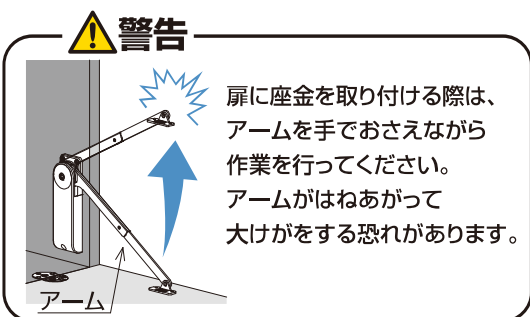
本体をキャビネットの規定位置に、付属のバインドタッピンねじで確実に固定してください。

※取付位置は取付寸法図をご参照ください。



● 座金の位置調節

座金の長円穴を扉の規定位置に、付属のバインドタッピンねじで仮止めします。扉開閉の動作確認を行い、左右のアームが同時に折れるよう、座金の長円穴で位置を調節しながら、仮止めしてください。



● 座金の固定

座金の丸穴(2箇所)にバインドタッピンねじをねじ込み、座金を確実に固定してください。

